

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石川 伊織

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】	・信越線及び新潟県内の鉄道に関する研究。今年は、勾配線区を走行する動力車に働く力学の考察と信越線の歴代の機関車について考察した。論文にまとめる時間的余裕が、今年のコロナ騒動の生でなかなか見いだせなかったが、鋭意準備中。	くびき野カレッジ第 20 期の講義として、2020 年 6 月 13 日に「マレー、ループ、スイッチバック——摩擦と重力と煙」を講演。
【くびき文化に関係しない研究】	(1) 2019 年の社会思想史学会でのセッションをもとに、ヘーゲルの性と生殖をめぐる議論への新たな視点として、絵画論におけるマリア像をめぐる論文を執筆した。 (2) 2020 年度より 4 年間、ヘーゲル美学に関わる研究で科学研究費・基盤研究 (B) に採択された。テーマは「ヘーゲル美学講義における絵画論の芸術哲学的な意義とボアスレ・コレクション」(課題番号 20H01204) である。現在、18 世紀半ばから 19 世紀半ばまでの 100 年間に出版された「美学」ないしは「芸術哲学」と題するドイツ語の著作物を網羅的に収集・分析する作業を行っている。 (3) Ästhetik の語を関するバウムガルテン以後 19 世紀の 30 年代までの美学書および大学等における美学講義の講義草稿ないしは筆記録、あるいは大学が公示した講義概	・論文「ヘーゲルと二人のマリア」(国際地域研究論集第 11 号 pp.17-30、2020 年 3 月 30 日) ・くびき野カレッジ第 21 期講義、2020 年 10 月 10 日「19 世紀初頭のヨーロッパにおける革命と戦争と芸術 (3) マリア・テレジアとハプスブルク王室絵画館」

	要を比較対照する研究。実際には、1820 年代以前の「美学」と称する論述は、実際には文学論であったことが明らかである。 (4) 先回の 2014-2018 年度の科研費研究「ヘーゲル美学講義に結実した芸術体験の実証的研究」(基盤研究 (B)・26284020) の報告書を WEB サイトに掲載すべく準備中。	
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 石塚 正英

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】 ★地域史・地域文化	以下のフィールド講座・調査を行った。 ★古代越後にとって高句麗は敵か味方か：ヤマトの前方後円墳 vs 高句麗移民の積石塚古墳、NPO 法人頸城野郷土資料室主催「くびき野カレッジ天地びと」第 19 期第 6 講、2020.01.25. ★「流れ勸進」&「冬の三十日荒れ」、ますや de お話会（5 回）、2020.06.13. ★上越市仲町 6 丁目の稻荷神社「銀婚式」（大正天皇成婚 25 年）鳥居調査、2020.08.08-09	★川上善兵衛による放射状道路建設の意義、『村づくりに一生を捧げた川上善兵衛の生涯』高士歴史研究会編集発行、2020.03 ★ ★
【くびき文化に関係しない研究】	以下のフィールド講演を行った。 ★ベートーヴェン「運命」とインド神崇拝、オンライン講座〔歴史知研究会 online〕②、2020.05.04. ★ミケランジェロの大理石、オンライン講座〔歴史知研究会 online〕③、2020.05.23. ★自転車という技術文化、ますや de お話会（9 回）、2020.10.10.	★大嘗祭における呪術性の再検討—折口・フレイザー・ド＝ブロスヒントに、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、ディスカッションペーパー、2020.03.09. ★ヤップ島に残る巨大な円形石の歴史知的意味—道徳的交換価値への架橋、NPO 法人頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要、ディスカッションペーパー、Vol.5/No.15、2020.09.11.

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 唐澤太輔

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】 ・頸城野地域を含む「裏日本」文化に関する研究	・これまで頸城野地域を含む「裏日本」文化について web 雑誌『ロゴスドン』（ヌース出版）で連載してきたが、その内容をまとめて、書籍として出版した。 ・大湯環状列石およびその地域の神社（大日霊貴神社〔大日堂〕他）でフィールドワークを実施した（秋田県鹿角市 1 泊 2 日）。 ・真脇遺跡およびその地域の神社（酒垂神社）でフィールドワークを実施した（石川県鳳珠郡 2 泊 3 日）。	（単著） ・『「裏日本」文化論：環日本海の文化・信仰・自然』（ヌース出版 2020 年 6 月）。 （コラム） ・「「裏日本」、パトリオフィル、クレオリゼーション」（『感性文化のフィールドワーク：石塚正英研究生活 50 年記念』（社会評論社 2020 年 3 月 pp.103-107）
【くびき文化に関係しない研究】 ・華嚴思想の研究 ・菅江真澄の記録に宿る創造性についての研究	・華嚴僧・明恵高弁の『夢記』を中心に、彼の夢の中に登場する動物の種類を調査し、その意味を探った。 ・秋田公立美術大学・NPO アーツセンターあきたが主催する展覧会《Arts & Routes あわいをたどる旅》にリサーチ・アソシエイトとして参加。論文、講演、対談の	（論文） ・「明恵の夢における動物の意味」（『「エコ・フィロソフィ」研究』vol.14 東洋大学 2020 年 3 月 pp.93-105） （論文） ・「真澄的存在論」（『Arts & Routes あわいをたどる旅トラベルガイド』、秋田公立美術大学・NPO

・南方熊楠が夢や粘菌研究から構想した生命論の探求	他、展覧会ではキャプション執筆、トークイベントの企画等を行なった。 ・南方熊楠の日記・書簡・論考を紐解き、そこから、彼が構想していた生命論を見出すことを行なった。具体的には、彼の生命論は華嚴思想と粘菌の生態研究に依るところが大きいため、華嚴思想の綱要書でもある『華嚴五教章』の精読を行うとともに、実際に粘菌を飼育し、その観察記録を付ける（動画による撮影）などを行なった。 ・その他、京都大学人文科学研究所「環世界の人文科学」に客員研究員として参加し、成果をまとめ論文を執筆。また、熊楠の神社郷土反対運動に関する英文論考を執筆。2本とも2021年内に発表予定。 ・考古学者・石井匠と3回に渡りオンライン対談を行い、その内容は書籍として2020年内に発刊予定。	アーツセンターあきた 2020 年 11 月) (講演・対談) ・「真澄的存在論」(石倉敏明×唐澤太輔、〈Arts & Routes あわいをたどる旅：菅江真澄をたどる勉強会〉秋田公立美術大学・NPO アーツセンターあきた 2020 年 6 月) (寄稿文) ・「粘菌とアート」(『つーくんふと』Kkub Zukunft 2020 年 7 月 pp.9-14) (講演・対談) ・「熊楠と粘菌、アート：私たちは生態系の調整者から何を学べるのか」(齋藤帆奈×唐澤太輔、アッシュ・ペー・フランス rooms41 〈rooms Academy〉2020 年 10 月) (書評) ・「南方熊楠が果たした国際的知的空間における役割と価値について考察：熊楠がどのような知的世界の中にいたのかを、当時の国際学術誌を丹念に調査分析し明らかに」(志村真幸『南方熊楠のロンドン：国際学術雑誌と近代科学の進歩』『図書新聞』3453 号 2020 年 6 月) ・「二人のM・Kの「萃点」を紐解く」(鎌田東二『南方熊楠と宮沢賢治：日本のスピリチュアリティの系譜』『週間読書人』2020 年 8 月)
---------------------------------	--	--

・その他		(ワークショップ監修) ・大森山アートプロジェクト 2020「粘菌を探そう！ワークショップ」(秋田公立美術大学・NPO アーツセンターあきた・大森山動物園 2020 年 8 月) (インタビュー) ・人類学者・石倉敏明へのインタビュー「外臓と共異体の人類学」(『More-Than-Human』、ÉKRITS [web メディア] 2020 年 12 月)
-------------	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 黒木朋興

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】 なし	なし	なし
【くびき文化に関係しない研究】 マラルメ研究 悪魔研究	詩人マラルメの宗教観の解明 悪魔文化受容の研究	〔論文〕『マラルメとライシテ』， 頸城野郷土資料室学術研 究部， 令和 2 年 2 月 〔連載〕『ロックと悪魔』16 回～20 回， 株式会社ブリタ ニ ア： http://www.britannia.co.jp/column/author/britannia/ 令和 2 年 1 月 8 日, 2 月 5 日, 6 月 10 日, 8 月 26 日, 10 月 21 日.

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 古賀 治幸

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】 くびきの文化関連 ・直江津プロジェクト関係	1) 直江津プロジェクト（東京） ・令和 2 年第一回会合（2020 年 3 月 21 日）：前年度活動報告と新年度の活動方針に関する打ち合わせ。 2) くびき野カレッジ（資料調査等） ・資料収集（2 月 14 日）：頸城郡絵図関連調査＝立川、国文学研究資料館 ・資料収集（8 月 7 日、28 日）：頸城郡絵図関連調査＝熊谷立正大学地図資料室、品川立正大学図書館 ・資料収集（9 月 12 日）：頸城郡絵図関連調査＝上越、直江津図書館	[報告] くびき野カレッジー天地びとー第 3 講 直江津往還補説 11ー頸城野内往来：在の道 1ー」 （6 月 13 日） [報告] くびき野カレッジー天地びとー第 2 講 直江津往還補説 12ー頸城野内往来：在の道 2ー」 （10 月 10 日）
【くびき文化に関係しない研究】 歴史学関連 ・近現代史関係 ・ロシア、ソ連史関係	・近現代史研究会開催 ・ロシア史研究会大会参加	

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 真野俊和

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】		
【くびき文化に関係しない研究】 四国遍路習俗の総合的性格に関する検討 柳田国男『明治大正世相篇』の読解・検討	四国 4 県によって設置される、「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録推進協議会「普遍的価値の証明」部会における研究会に出席し、検討と議論に参加した。 講義案の作成・実施	以下の日程で会議実施 ・ 2020 年 1 月 24, 25 日（於・松山市） ・ 2019 年 10 月 29 日（オンライン） 「くびき野カレッジ」にて講義実施 ・ 2019 年 1 月 11 日 ・ 2019 年 8 月 8 日

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 瀧田 寧

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】	右欄の資史料紹介は、2016 年 9 月 10 日の札幌市「エドウィン・ダン記念館」での講演原稿をもとに、その後の研究成果も反映させて、加筆修正を施したものである。特に、直江津の「エネルギー供給基地」としての現状について、大幅に加筆した。	〔資史料紹介（単著）〕 エドウィン・ダンとジェームス・ダンが直江津にもたらした“近代” 頸城野郷土資料室（発行）『頸城野郷土資料室学術研究部 研究紀要』 第 5 巻第 5 号、 1-12 頁、令和 2 年 3 月 25 日
【くびき文化に関係しない研究】		〔学術論文（単著）〕 『人間知性論』初版における「観念連合」の萌芽—『論理学、別名思考の技法』の「付带的観念」と比較して— 『イギリス理想主義研究年報』（日本イギリス理想主義学会編）特集号、3-11 頁、令和 2 年 2 月 1 日

		〔口頭発表（単独発表）〕 『知性の正しい導き方』における哲学教育的意義 —教養としての哲学教育の現場から 第 15 回イングランド啓蒙研究会（Zoom 会議）、 令和 2 年 10 月 18 日 〔文献紹介（単著）〕 「ジョン・ロック『知性の正しい導き方』を読む」 『砧通信』（日本大学図書館商学部分館）第 49 号、 18-23 頁、令和 2 年 12 月 1 日
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 米田 祐介

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】 小川未明と三島由紀夫	三島由紀夫没後 50 年を記念し開催された石塚正英氏の講演「兵卒たちの二・二六昭和維新——三島由紀夫と小川未明の〔憂国〕を交えて」（2020 年 11 月 24 日）より大いなる示唆をいただいた。前年度の研究課題を引継いたうえて検討を加えるならば、石塚氏の「人神」と「神人」の概念整理は同時に、三島と未明に重なりあう「パトリ」に一条の光を与えるものである。没後を記念し刊行された三島の資料のさらなる精査を通じて未明との接合を進めていく。	
【くびき文化に関係しない研究】 「生産性」をめぐる“生きづらさ”—— オルタナティブとしての分人主義は可能 か？	前年度の研究課題を引継ぎ、右研究紀要に発表した。2010 年代を「生産性」というキーワードのうちに読解し〈フクシマ〉と〈サガミハラ〉という二つの事件を地続きの関係にあるものとして検討したうえて、旧来人間存在の基礎単位とされてきた近代的な「個人 individual」という単位に懐疑のまなざしをむけ資本制システム（＝権力）に取り込まれつつもそれを“内破”する〈わたし〉の“構え”として「分人 dividual」概念の可能性を探求した。	「フクシマとサガミハラが投げかけるもの——『生産性』の 2010 年代、事件後に人間の尊厳について語るということ」立正大学哲学会編『立正大学哲学会紀要』第 15 号、2020 年、pp.49-63

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 茂木謙之介

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】 ★地域史・地域文化	近代天皇（制）と地域社会について時代と地域をまたいで展開するあり様を分析中である。研究成果発表は順調に進捗している。	・ 論文 1. 茂木謙之介「「慰霊」する「弱い」天皇の誕生—1994 年小笠原諸島行幸啓の検討から—」（『世界史研究論叢』（10）、2020 年 10 月）
【くびき文化に関係しない研究】	天皇・怪異を中心に、近現代日本に関連する表象研究を遂行し。研究成果発表は順調に進捗している。	・ 書籍 1. 大嶋えり子，小泉勇人，茂木謙之介編『遠隔でつくる人文社会学知—2020 年度前期の授業実践報告—』（雷音学術出版、2020 年 10 月） ・ 論文 1. 茂木謙之介「〈正統〉と〈神聖〉の在りか—戦後天皇（制）をめぐる〈偽〉なるものの想像力—」（『ユリイカ』2020 年 12 月号） 2. 茂木謙之介「政治とアリスとユートピア——初期別役実テキストと〈幻想文学〉の共時性について」（『ユリイカ』2020 年 10 月臨時増刊号）

		3.茂木謙之介「キャラクター化される歴史的人物——「キャラ」としての天皇・皇族の分析から」 (大橋崇行ほか編『小説の生存戦略 ライトノベル・メディア・ジェンダー』 青弓社、2020 年 4 月)
--	--	--

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 山田 彩加

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】 ・ 春駒について	2019 年 11 月に開催された「春駒の集い」を鑑賞し、 民俗芸能が文化資本としての側面を持つことについて論じた。	山田彩加 2019 「春駒，一堂に会す」 (『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』 フォーラム) ※前年度の報告後に発表
・「大経曼荼羅」について	善念寺（上越市）所蔵「大経曼荼羅」に描かれた 内容について分析した。	山田彩加 2020 「曼荼羅の目覚め」 (『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』 フォーラム)

【くびき文化に関係しない研究】 ・近代文学と日本語訳聖書の関係	明治期以降に出版された日本語訳聖書は、近代の作家に影響を与えている。 主に、正宗白鳥（1879-1962）の作品を通して、正宗が触れたと思しき日本語訳聖書について論じた。	山田彩加 2020 「正宗白鳥と近代日本の聖書」 （『頸城野郷土資料室学術研究部研究紀要』ディスカッションペーパー）
---	---	---

NPO 法人頸城野郷土資料室
2020 年度学術研究概要報告

研究者氏名 湯本 泰隆

研 究 課 題	研 究 進 捗 状 況	発 表 状 況
【くびき文化に関する研究】		くびき野カレッジ天地人 —報告— 「地名研究の“今”長岡地域の地名・上越地域の地名」
【くびき文化に関係しない研究】 ・長岡市摂田屋機那サフラン酒本舗資料整理 ・加茂市周辺の地域文化の調査・活用 ・郷土の歴史や文化をテーマにした動画コンテンツの実践的研究 ・「当事者研究スゴロク」や「まわしよみ新聞」を用いたコモンズ・デザインの実践的研究	・機那サフラン主本舗資料整理に関しては、2020 年より同施設が正式に市の所有となったため、9 月をもって一旦終了した。 ・加茂市周辺の地域文化の調査・活用に関しては、現在継続して行っている。2021 年度内に、加茂のマカロニ国産化成功という歴史的な内容を題材にした漫画が発行される予定 ・動画に関しては、インバウンド関連を中心に現在様々なコンテンツを制作中。様々な種類の動画をあげながら、どういう動画が多くのか、支持されるのかというものが少しずつ見えつつある。2021 年度はインバウンドコンテンツ中心に発信していきたい ・大阪の陸奥賢さんが提唱したコモンズ・デザイン。その具現化したものである「当事者研究スゴロク」や「まわしよみ新聞」の普及活動を通じて、自他の無領域化や他視感などを育成する教育プログラムなどを追及して行く。	板碑を読む 栃尾熊袋・円隆寺遺物の板碑二基」 (栃尾タイムス 2020 年 2 月 15 日号) 「井上円了と坪井正五郎」『妖怪文化 第 3 号』 (2020) 「荒川次郎吉に関する資料二点」『長岡郷土史研究 第 57 号』長岡郷土史研究会 —報告— 「ネコはどこから来たのか?～日本人とネコ、奇跡の交流～」(2020 年 加茂市かも小町様にて)